

## 発刊にあたって

平成10年10月1日水産庁研究所の組織改正により、瀬戸内海区水産研究所が発足しました。瀬戸内海区水産研究所としては文字通り瀬戸内海を主たる研究対象海域として閉鎖性内湾域における漁業の振興とともに閉鎖性水域で問題の多い漁場環境保全について研究を重点化して推進することになっています。

さて、科学技術の発展のためには、基礎研究の深化と基礎的研究成果の応用が相互に連携する必要のあることは言うまでもありません。一方、成果の総合的な解析と研究ニーズの整理、成果の解説と普及および利・活用が、研究の効率的推進において益々その重要性が増しております。

このような情勢および各界の要請に応えるために、また、瀬戸内海区水産研究所の発足を記念して原著論文を掲載する「瀬戸内海区水産研究所研究報告」の他に「瀬戸内海区水産研究所調査研究叢書」を新たに刊行することにしました。叢書では、瀬戸内海区水産研究所の対象海域である瀬戸内海など閉鎖性水域における漁業、生物生産、赤潮・有毒プランクトンおよび有害物質汚染に係る諸問題の解析を通して研究推進方向、研究ニーズや課題および研究手法などについて取りまとめ、水産研究のさらなる発展に貢献したいと考えています。

ここに、「瀬戸内海区水産研究所調査研究叢書」を発刊するにあたり、21世紀に向けた新たな水産業の創造に向けて所員一丸となって努力する所存であります。各界のご理解とご指導、ご鞭撻を宜しく申し上げます。

平成12年1月

瀬戸内海区水産研究所長

會澤安志